

The Role of SNS in Supporting the Social Adaptation of Russian Immigrants in Japan: From the Perspective of Social Capital

キムチュク・スヴェトラナ（筑波大学）

KHIMCHUK, Svetlana (University of Tsukuba)

キーワード：在日ロシア人、社会適応、SNS、社会的資本

1. 背景

2024年の在留外国人の統計によると、在日ロシア人は11840人である（e-Stat、2024）。さらに、日本における在日ロシア人の可視性が過去と比較して高まっていることを示す一例として、2023年に108人の在日ロシア人が初めて日本国籍取得者の統計に記録された点が挙げられる（法務省、2023）。

社会関係資本は、ネットワークを通じて得られる資源の総体である（Bourdieu、1986）。Coleman（1988）は、移民家庭の子供たちの教育的成功における社会関係資本の重要性を強調しており、Portes（1995）やPutnam（2000）は、移民の社会適応で、社会関係資本の重要性を強調している。また、SNSは、これらのネットワークを構築・強化するための重要なツールであり、移民が異国の社会に適応する過程で発生する多くの課題を乗り越えるための支援を提供する。母国とのネットワークは、受け入れ社会での統合を促進する場合もあれば、逆に阻害することもあるが、経済的資源や情報、心理的サポートを提供することで統合を助ける側面もある（永吉、2020）。本研究は、在日ロシア人の社会適応におけるSNSの役割を、社会的資本理論を用いて分析することを目的とする。また、先行研究にはムヒナ、ゴロウィナの研究があるが、本研究はボンディング型とブリッジング型社会的資本の観点から、SNSの役割を解明する。

2. 方法

本報告では、32名の在日ロシア人のインタビュー調査の結果を検討する。対象者は、女性が多く（81%）、年齢は22～43歳、在留期間は1～12年である。最も多い在留資格は技術・人文知識・国際業務（13名）、次いで留学生（9名）、永住者（3名）、家族滞在（2名）、日本人の配偶者（2名）、興行（1名）、高度人材（1名）、帰化者（1名）である。

インタビューでは、移民のSNS利用によるボンディング型・ブリッジング型社会的資本の形成と、それが日本社会への適応に与える影響を分析した。また、年齢、ビザの種類、日本語能力、SNS利用の関連性についての分析として、相関分析と内容分析を行った。

3. 考察と結果

インタビュー結果、28名がSNS（X、Facebook、Telegram）を日常的に利用し、情報収集、サポート、感情的支援の場として重要な役割を果たしていることが明らかになった。SNSはボンディング型社会的資本を形成し、在日ロシア人とのつながりを維持しながら、生活上の課題解決に貢献している。

SNSは情報源を超えた心理的サポートの場として機能し、在日ロシア人の社会適応に必要な支援を提供している。例えば、「SNSを通じて他のロシア人とつながることで、孤独感を感じなくなった」と述べている。

さらに、SNSはブリッジング型社会的資本の形成にも寄与している。在日ロシア人は、SNSを通じ

て日本人や他の外国人との交流を深め、日本社会との接点を持つことができていると感じている。数名の参加者は、「SNSを通じて日本人と交流し、文化や言語について学んだ」と述べており、これが在日ロシア人の社会適応を進める上で重要な要素となっていることが明らかになった。SNSは情報の即時共有と多国籍コミュニティとの接続を可能にし、在日ロシア人の社会適応を促進している。このようなSNSの利用は移民の日本社会への適応を促進する役割を果たしている。

加えて、在日ロシア人移民のSNS利用頻度と3つの要因（年齢、在留資格、日本語能力）の関係を分析した結果、年齢とSNS利用頻度には弱い負の相関（ $\rho = -0.22$ ）があり、年齢が上がるとSNSの利用頻度がやや減少する傾向が見られた。また、在留資格についても弱い負の相関（ $\rho = -0.31$ ）があり、安定した在留資格（永住者など）を持つ移民は、留学ビザや就労ビザなどを持つ移民よりもSNSの利用頻度がやや低い傾向があった。一方で、日本語能力とSNS利用頻度の間には中程度の正の相関（ $\rho = +0.35$ ）が見られ、日本語能力が高い移民ほどSNSをより頻繁に利用する傾向があった。これらの結果から、年齢や在留資格よりも、日本語能力の方がより大きな影響を与えていることが示唆された。しかし、質的な内容分析の結果、性格や生活背景などの要因もSNSの利用頻度に影響を与えていることが明らかになった。例えば、D（女性、滞在7年、人文知識ビザ、N1）は、日本語能力も高く、滞在期間も長いが、性格の傾向やロシア人コミュニティに対する批判的な見方の影響で、他者とのコミュニケーションを積極的に避けていると述べている。

最後に、SNSは在日ロシア人移民において、ボンディング型とブリッジング型の社会的資本を同時に形成する重要なツールであることが明らかになった。特に、情報共有、感情的支援、文化的橋渡しの機能は在日ロシア人の適応を円滑にし、社会的資本を拡充する不可欠な要素であると言える。

参考文献

1. Bourdieu, P. (1986). The Forms of Capital. In J. Richardson (Ed.), Handbook of Theory and Research for the Sociology of Education. New York: Greenwood
2. Coleman, J. S. (1988). Social Capital in the Creation of Human Capital. American Journal of Sociology, 94, S95–S120
3. Portes, A. (1995). Economic Sociology and the Sociology of Immigration: A Conceptual Overview. In A. Portes (Ed.), The Economic Sociology of Immigration: Essays on Networks, Ethnicity, and Entrepreneurship. New York: Russell Sage Foundation
4. Putnam, R. D. (2000). Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community. New York: Simon & Schuster
5. e-Stat「2024 年在留外国人統計」総務省統計局、2024 年、<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?tclass=000001048670&cycle=1&year=20240&month=12040606>（2025 年 2 月 15 日閲覧）
6. 永吉希久子編（2020）『日本の移民統合: 全国調査から見る現況と障壁』明石書店
7. 法務省「日本国籍取得者統計」2023 年、https://www.moj.go.jp/MINJI/toukei_t_minj03.html（2025 年 2 月 15 日閲覧）
8. ムヒナ・ヴァルヴァラ、ゴロウィナ・クセーニヤ（2017）「ロシア人ディアスポラの現状—在日ロシア人移住者の位置づけに向けて」『Migration Policy Review』9, 106-123